

京都

大
らろつきまわりんぐ ～ひとときの楽園～

府立植物園 観覧温室



寒い。改めて言うまでもなく、京都の冬は寒い。しかも目の前には、試験範囲のノートのコピーとレポート課題の山…。ため息のひとつもつきたくはなる。できることなら逃げ出したい。この寒さと、冬の京都に閉じこめられたような単調で憂鬱な毎日から。バカンスに行きたい。暖かいところに。いっそ南国にでも行きたい。…ぼんやり考えを巡らせているうち、ふと植物園を思いついた。これまで行ったことはなかったが、確かあそこには温室があったはずだ。暖かい温室で熱帯の植物でも見れば、ひとときでも南国気分になれるかもしれない。こたつの上の課題はうしろめたかったが、気分転換だと言い訳をして出かけることにした。

植物園の門に入って左手に観覧温室がある。平日ということもあって、あまり混んではないようだ。分厚いコートを着たまま、入り口をくぐった。

途端に、世界が変わる。まず目に飛び込んでくるのは、色とりどりの緑だ。濃い緑、明るい緑、鮮やかなエメラルドグリーン。冬の京都ではまず見られない熱帯の緑の競演は、「生命力」という言葉を思い出させてくれる。そして、もうひとつ外の世界と大きく違うのは、植物のサイズ。熱帯の植物は概してでかい。単に背が高いというのではなく、葉の一枚一枚、花や実のひとつひとつがべらぼうに大きい。暖かい場所で存分に成長した植物特有の、その無遠慮な大きさを見ていると、寒さで縮こまっていた体がほぐれて伸びていくような気がする。不思議な形をした南国の植物たち。本当にここは外とは別世界のようだ。コートを着ているこ



とが場違いに思えるほどだった。熱帯雨林のコーナーの次には「砂漠の植物」ということで様々なサボテンが展示されている。こちらもユーモラスな形で見ると楽しませてくれる。外に出ると、そこはやはり真冬の京都だった。植物園にはこの温室以外にも様々な見どころがあるのだが、寒いので園内の散策は春が来てから、ということにする。それでも、気分はずっと明るくなっていた。温室の植物たちが持っている溢れんばかりの生命力を、少しだけ分けてもらったのかもしれない。(ロビ)

入園案内

開園時間：午前9時～午後5時
(入園券販売終了は午後4時)
温室観覧時間：午前10時～午後4時
(入室券販売終了は午後3時30分)
入園料：200円(温室観覧は+200円)

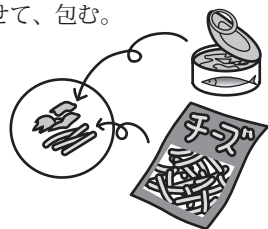
かんたん Cooking

喜 喜 喜 [ツナとチーズのギョウザ] 喜 喜 喜

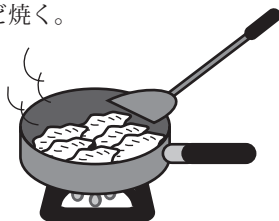
中華料理の定番、ギョウザを手頃な材料で簡単に。お酒のおつまみにぴったりです。
なお、このレシピは教育学部2回生「せいうち」さんに投稿していただいたものです。(ピカイチ)

材料	
ギョウザの皮	………食べたいだけ
ツナ缶	………入るだけ
ピザ用チーズ	………入るだけ
サラダ油	………適宜

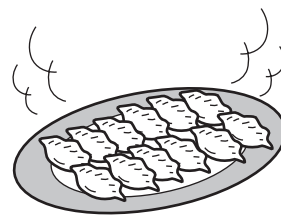
①ギョウザの皮にツナとピザ用チーズをのせて、包む。



②フライパンにサラダ油を引き、①を5分ほど焼く。



③完成。



はみだし すてーじ

今、黒ごまクッキーを作っています。もうすぐ焼き上がります。⇒おいしそうですね。次に焼いたときは是非編集部へ差し入れをお願いします。

(文・2 うるうる)
(クッキーが大好物の編)